

コロナ禍における学生支援のための フードドライブ・デザインに関する 研究

芸術学部
ビジュアルデザイン学科
教授
真島 猛



研究シーズの紹介

フードドライブは、家庭などで余った食品を引き取り、食料に困っている人や福祉施設等に無償で提供する仕組みである。近年では、SDGsの食品ロス削減の方策の一つとされ注目されている。

本研究の目的は、コロナ禍における学生への食料の提供支援のために、本学内にフードドライブを設置・運用し、効果を検証することである。

コロナ禍において、企業のリストラや倒産による学生の家庭への経済的なダメージや、学生のアルバイト先の減少などにより、学費を払えず退学せざるを得ない学生は少なくない。そのような学生を支援するため、本研究では、芸術学部と理工学部の共同により、本校の実態に即したフードドライブとはどのような形態か検証を行う。



フードドライブの 運用・活用の技術

- 導入対象に合わせたフードドライブが可能です。
- 子ども食堂と連携した生活困窮者支援の効果があります。

フードドライブ・カウンター・デザイン



子供たちへ食品ロスを伝えるワークショップ



分かりやすく伝えるコミュニケーション・デザイン



フードドライブの開催と子供食堂へ食料支援



期待される活用シーン

- 廃棄食材（物）を再利用し、有効活用。
- ICTを活用した新たなビジネス展開。



- 農家、工場
- 企業
- 行政



- リサイクル商品の開発。
- 企業のイメージアップおよびブランディング。



- 子どもたちへ食に関する問題意識の浸透促進。
- 母子家庭などの貧困救済に貢献。



- 学校
- 家庭



- ワークショップやマルシェ開催のノウハウ。
- フードドライブ、子ども食堂の運営。



その他の研究テーマ

社会問題の解決のためのデザイン及び研究

- メンタルケアのためのピアサポートのデザイン及び研究。（芸術学部×人間科学部）
- 児童虐待SOSのためのデザイン及び研究。（芸術学部×人間科学部）
- AR、VRなど新たなテクノロジーを活用したコミュニケーション・デザインの研究。（芸術学部×理工学部）